

平成21年度 学校経営計画書及び自己評価計画書

石川県立金沢泉丘高等学校(全日制課程)

学校長 浅田 秀雄

1 教育目標

心身一如の発達につとめて

真理を求め、勉学を第一義とすること
情操を豊かにし、品位を高めること
誠実にして、社会から信頼されること

正義を愛し、自らを清くすること
自らとともに、他の人格を重んずること

2 中・長期的目標

(1) 学校の現状

本校は、創設以来「心身一如」を校是とし、調和のとれた人材育成に取り組んできた。確かな学力を身につけさせるとともに、心身共に健全で品位と良識あふれる次世代を担うリーダーの育成をめざしている。

大学進学に関しては、県内有数の進学校としての実績を収めているが、全国を視野に高い志を掲げて学習させるとともに、第一志望を実現させることをめざしている。

平成15年度に文部科学省の指定を受けたスーパーサイエンスハイスクールの研究開発が、平成18年度にさらに5年間延長されることとなった。生徒の興味・関心を高める指導法の研究をとおして、理数科だけでなく学校全体の活性化を図っている。

学校評価の実施、土曜スクール開校、校内職員研修の充実等を行い、保護者や県民から信頼される学校づくりを進めている。

(2) 生徒に関する中・長期的目標

確かな学力の育成

進学実績の向上をめざし、質の高い教科指導と学習意欲に応える授業を組織的に展開する。

豊かな心の育成

「心身一如」の具現化に向けた有意義な体験が展開されるよう、部活動・学校行事・社会奉仕活動等の環境整備を図り、「ふるさとを想ういしかわのリーダー」に必要な人格の陶冶をめざす。

(3) 教職員・学校組織等の望ましい在り方

組織の活性化と指導力の向上

校務分掌において、副校長・教頭・主幹教諭・主任の位置付けを明確にし、学校運営の機能化を図る。教職員が互いに教育実践をとおして、計画的に指導力の向上を図る。

開かれた学校づくり

本校の方針や特色ある取り組みを、積極的に県民に伝え、広く協力・支援が得られる学校とする。また、PTAや地域社会とも連携することによって、本校の教育活動が有機的に展開することをめざす。

3 今年度の重点目標

創立120周年にむけ、建学精神に基づいた教育活動の実践に努める。

(1) 「勉学を第一義とする」をふまえ、高い学力を身につけ進路志望の実現を図る。

・1時間の授業の大切さを意識し、意欲的に取り組む。

(2) 「品位を高め、他の人格を重んずること」をふまえ、よりよき集団づくりをめざし、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。

・あいさつの励行、体力の向上、成果ある部活動と充実した創立記念祭の取組。

(3) 「正義を愛し、社会から信頼されること」をふまえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。

・保護者懇談会、授業公開の機会拡大。地域社会と連携した生徒活動の推進。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の 観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1 「勉学を第一義とする」をふまえ、高い学力を身につけ進路志望の実現を図る。 ・1時間の授業の大切さを意識し、意欲的に取り組む	学校評価を年2回実施しその結果を検討・分析して今後の学習活動の改善・向上に役立てる。	総務課	年2回保護者に対して実施しているアンケートを学習活動の改善に反映・役立てる努力はしているが、さらなる工夫が必要と思われる。 昨年度 本校が学力向上に積極的に取り組んでいるに対し、「よくあてはまる」は53%、「ややあてはまる」は42%であった。	【満足度指標】 保護者アンケートにおいて、本校が学力向上に積極的に取り組んでいる、と評価される。	判断基準が、「よくあてはまる」と答えた割合が前年度より A 10%以上増加した。 B 5%以上増加した。 C ほとんど変わらなかった。 D 減少した。	C・Dの場合、授業改善などととも改善策を検討する。	保護者アンケートを7月・12月に実施
	教科として授業改善に取り組む。校内研究授業では、教科として目標を設定し取り組む。教員同士の授業参観をより積極的におこなう。	教務課	従来から校内研究授業は、前期と後期に実施し、国語・地歴公民・数学・理科・英語は年2回実施しているが、教科として校内研究授業に取り組む体制をさらに確立する必要がある。また、昨年度、授業参観期間において、自教科を参観した回数が1人あたり3.5回であった。 授業に対する満足度をあげる。	【満足度指標】 「授業が充実している」に対する生徒評価で、 よくあてはまる = 4 ややあてはまる = 3 あまりあてはまらない = 2 全くあてはまらない = 1 として点数化する。	生徒による授業評価の「授業が充実している」の評価の平均が A 3.4以上 B 3.35以上 C 3.3以上 D 3.3未満 (昨年度は3.3)	C・Dの場合、授業参観期間などの延長を含めより積極的改善を図る。	生徒による授業評価を7月と12月の年2回実施
	基礎力の充実を大前提とした上で、難関大入試分析や東大・京大・医学部説明会等の充実を図る。また、受験集団としての意識を高める工夫をしていく。	進路指導課	3年生は難関10大学及び国公立大学医学科への進学志望者が200名を越えその内、東大志望者は50名程度いる。しかし、標準を越えるレベルの問題に対する対応力を育成し、最上位層の更なる伸張を図る必要がある。	【成果指標】 超難関大・難関10大学・国公立大の志望者全体成績の向上をめざす。	東京大学・京都大学の合格者の合計人数が、 A 30人以上 B 25人以上 C 20人以上 D 20人未満	Dの場合、校外研修などを取り入れ、より積極的な改善策を検討する。	次年度当初に反省会・検討会を実施する。
	学習の柱となる授業の内容をいっそう充実させるとともに、補習や個人添削を通して、生徒一人一人の志望や学力にあわせた指導を時機を逸することなく実施する。	3学年	2年生の後半から基礎基本の定着を図ってきた結果、標準レベルの問題に対応できる学力は定着してきている。更に標準を越えるレベルの問題への対応力を育成していく。	【成果指標】 生徒の志望する大学への合格率が上昇する。	難関10大学及び国公立大学医学科の合格者数が A 120名以上 B 100名以上 C 80名以上 D 80名未満	Dの場合、校外研修などを取り入れ、より積極的な改善策を検討する。	次年度当初に反省会・検討会を実施する。
	ホーム担任および学年主任は、全国規模の校外模試で具体的な目標得点を設定した上で受験するよう、全生徒に対し、年間5回以上の個別面接指導を実施する。	1学年 2学年	全体的に高い学力を有する生徒が多い中で、特定の教科に苦手意識を持ったりする生徒や、家庭学習が十分でない生徒もいる。高校の授業に適應できるよう指導が必要である。	【満足度指標】 学年団の指導により、生徒の学力や学習姿勢が向上した。	学年団の指導が、自分の学力や学習姿勢の向上に役立ったと考えた生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合、原因を究明し、改善策を検討する。	生徒によるアンケートを7月と12月の年2回実施

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の 観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
「品位を高め、他の人格を重んずること」をふまえ、よりよき集団づくりをめざし、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。 ・あいさつの励行、成果ある部活動と充実した創立記念祭の取組	挨拶をきちんと行うことにより、相手を尊重する態度の育成を図る。教育活動のあらゆる機会を通して、しっかりした挨拶の実行を促す。	生徒指導課	以前より改善されつつあるが、自らすすんで大きな声で挨拶する習慣ができていない者も少なくない。また、昨年度アンケートでは「自ら進んで挨拶をしている」と答えた生徒は9割を超えたが、「泉丘生徒が挨拶をしっかりしている」と答えた生徒は、6割にとどまった。	【成果指標】 多くの生徒が、しっかりと挨拶が出来る。	自分自身がしっかりと挨拶をしていると答えた生徒(主観的評価)と、周りの生徒の挨拶がしっかりとできていると感じる生徒(客観的評価)がそれぞれ A 90%以上いる。 B 80%以上いる。 C 70%以上いる。 D 70%未満である。	前期修了の段階で、C以下の場合には指導内容・方法を検討する。	学期毎のアンケートで評価・反省する。
	部活動の活性化、競技力の向上を図る。	生徒指導課	全体的に頑張りを見せているが、昨年は県総体総合8位(男子10位・女子16位)であった。	【成果指標】 総体の総合順位を上げるため、全校あげて取り組む。	総体総合順位が A 3位以上 B 6位以上 C 9位以上 D 9位以下	C以下の場合、新人大会をめざし、新たな工夫や指導方法を考える。	高体連からの報告により調査する。
	利用しやすい図書館めざす。読書時間調査や読書傾向を掴み読書量の増大を図る。	図書課	携帯電話、インターネットなど様々な情報メディアや漫画の普及など社会の変化により読書離れの傾向がある。ここ6年間は貸出数が横ばいであり、貸出量の増加をはかる。	【成果指標】 生徒の読書量増加をはかる。 (昨年は約3800冊)	1年間(1月末現在)の本の貸出し数が、 A 4500冊以上 B 4000冊～4449冊 C 3500冊～3999冊 D 3500冊未満	C・Dが予想される場合、教科等と連携方法を工夫して貸出し数増加に努める。	月毎の貸出し数による。
	部活動と勉学の両立をめざす。時間のけじめや、社会規範を身につけさせる。	2学年	登校時、ST、授業等のあらゆる機会を捉えてあいさつの重要性や規則遵守の意義を理解させるための働きかけを行っているが、継続した取組が必要。	【満足度指標】 学年団の指導により、生徒の規範意識が向上した。	学年団の指導が、自分の規範意識向上に役立ったと考える生徒の割合が学年全体の、 A 80%以上 B 70～80% C 60～70% D 60%未満	C・Dの場合、原因を究明し、改善策を検討する	生徒によるアンケートを7月と12月の年2回実施
	自立心の育成をめざし、いち早く高校生活に慣れさせる。	1学年	随時、生徒個人面談を行いながら、高校生としての自覚を促す指導が求められる。	【満足度指標】 学年団の指導により、生徒との連携をはかり、積極的に学校生活をおくるよう支援する。	学年団の指導が、学校生活を有意義に送るために役立っていると考えている生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	C・Dの場合、原因を究明し、改善策を検討する	生徒によるアンケートを7月と12月の年2回実施

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の 観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 「正義を愛し、社会から信頼されること」をふまえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。 ・保護者懇談会、授業公開の機会拡大。地域社会と連携した生徒活動の推進。	PTA 総会時の土曜エクステンションスクール泉丘や「いしかわ教育ウィーク」を中心として、授業公開を積極的に行う。今年度は、教員同士の授業参観期間(前期・後期にそれぞれ5週間)にも授業公開を実施する。	教務課	年間に授業参観した保護者数は、一昨年度 755 名、昨年度 881 名であった。また、保護者による学校評価の「教職員は、指導力に優れ、信頼できる」に対し、「よくあてはまる」及び「ややあてはまる」と答えた保護者の割合が 93 % であった。	【満足度指標】 授業公開や研究授業の実施によって、授業の質や評価の向上が見られる。	保護者による学校評価の「教職員は、指導力に優れ、信頼できる」に対し、「よくあてはまる」及び「ややあてはまる」と答えた保護者の割合が A 95 % 以上 B 90 % 以上 C 85 % 以上 D 85 % 未満	C・D の場合、原因を究明し、改善策を検討する	保護者による学校評価を 12 月に実施
	生徒、及び保護者が気軽に来室でき、安心して相談できる環境作りを一層進めていく。	教育相談室	相談室の場所が分かりにくく、リラックスできる温かみのある雰囲気により必要。	【成果指標】 生徒や保護者が親しみやすく気楽に来室できるようになる。	生徒・保護者に対して「相談室だより」を年間で、 A 5 回以上出した。 B 4 回出した。 C 3 回出した。 D 2 回以下しか出せなかった。	C・D の場合、関係部署と連携し発行に務める。	6 月・10 月・12 月・2 月に相談室連絡会を実施。
	I S O 活動「節電・紙の節約やりサイクル・ゴミの分別」を通して、環境保全意識の向上を図る。	保健環境課	I S O 活動に対する学校評価結果の肯定的評価は 72 % であったが、さらに改善の余地がある。「I S O 便り」は H20 年度は 6 回発行した。	【満足度指標】 生徒の「環境意識」を高め、地域での活動を積極的に取り組むよう促す。	生徒の「環境意識・地域での活動」の自己評価全体に占める肯定的評価(「よくあてはまる」と「だいたいあてはまる」の合計が A 80 % 以上 B 70 % 以上 C 60 % 以上 D 60 % 未満	C・D の場合、意識改革や周知方法について改善策を検討する。	生徒によるアンケートを 7 月と 12 月の年 2 回実施
	ホームページの更新を定期的に行い、各種行事・部活動・SSHの様子や教育課程・進路などの情報を校外へ発信し、よりわかりやすく公開する。	情報管理室	各課室からの情報の提供によって、ホームページの更新をかなりの頻度で行い内容は充実してきているが、情報の鮮度という点ではまだ不十分であり、改善していく必要がある。	【満足度指標】 保護者による外部評価において、「学校のホームページにより、学校の様子がわかる。」という人数の増加が見られる。	「学校のホームページにより、学校の様子がわかる。」という項目のよくあてはまるとややあてはまるを合わせた割合が、 A 90 % 以上である。 B 80 % 以上である。 C 70 % 以上である。 D 70 % 未満である	D の場合は、ホームページの内容の改善を検討する。	保護者アンケートを 7 月・12 月に実施
	創立記念祭で、理数科 1 年生が近隣の小中学生に対して理科教室を開き、地域貢献を図る。	SSH推進室	昨年度は、SSH研究発表会の直前に、近隣の小中学校に呼びかけ、理科教室を開催した。しかし広報不足で来校者が少なかった。	【成果指標】 啓発活動を通じて、保護者や地域の小中学生が、参加する。	創立記念祭中の教室の来客数が、 A 100 人以上 B 75 人以上 99 人以下 C 50 人以上 74 人以下 D 49 人以下	C・D の場合、次年度に新たな取り組みを検討する。	来場者数及び、当日のアンケートを実施。